

# あまのこ



Niimi University

2023 | <https://www.niimi-u.ac.jp>

## 全世代型地域包括ケア研究センター

Events&News

各学科での取り組み紹介

夢に向かって

活躍している学生たち

教員の活動紹介

健康保育学科教授 岡本邦広

大学から学びを発信

同窓会だより

延世大学学術交流シンポジウム

お知らせ



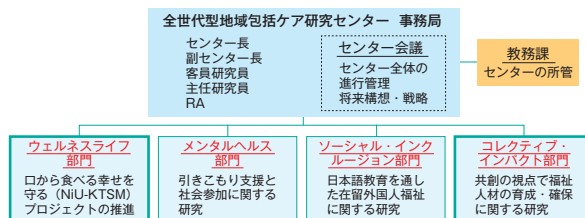
# 全世代型地域包括ケア研究センター

## 活動を紹介

2023年4月の本学大学院健康科学研究会の新設に伴い、中山間地域で暮らすすべての人の生活課題解決を目指した地域包括ケアの実践モデルを「新見市」で構築することを目指して「全世代型地域包括ケア研究センター」を創設しました。

研究センターでは4つの部門に分かれて「プロジェクト研究」を推進してこの目的達成を目指していますが、その一つである「ウェルネスライフ部門」ではNiU-KTSM(口から食べる幸せを守る)プロジェクトの実践研究を実施しています。この研究は、中山間地域で暮らすすべての人々の口から食べる幸せを人生の最期まで守ることを目的としております。しかし、本人がその希望を持っていても、それが叫ばない方々が存在するという事実もあります。この問題解決に向けて立ち上がったNPO法人「口から食べる幸せを守る会」と本学研究センターが協働して、「口から食べる幸せを守る」ことのできる支援スキルを身に着けた人材育成に努めております。また、熟練した看護技術と知識を用いて食の支援を実践できる専門職として「摂食嚥下障害看護認定看護師」の養成にも着手しております。

2023年度全世代型地域包括ケア研究センターの概要

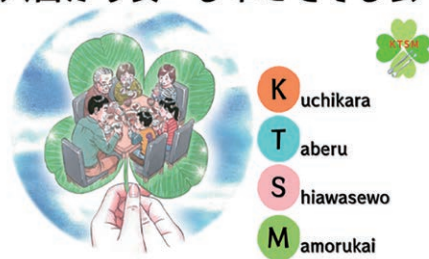


各部門での新見モデルの構築

## ウェルネスライフ部門



## NPO法人口から食べる幸せを守る会®



## NiU (新見公立大学)-KTSM プロジェクトの取り組み

「NiU-KTSMプロジェクト」は、全世代型地域包括ケアにおける看護学・福祉学の一環として、NPO法人「口から食べる幸せを守る会 (理事長:小山珠美, 新見公立大学臨床特命教授)」と協働し、新見地域医療ネットワークご協力のもと、新見地域における「口から食べる幸せを守る」啓発活動や「食支援」における知識と実践力を身に付けた専門職人材の育成等を目的に発足しました。2023年度は本学にて「摂食嚥下障害者への食事介助実技セミナー」を開催し(4月・10月)、小山先生による食事サポーター講座や学部生への講義に加え、新見市内の指導者育成や市内の病院訪問にもつなげることができました。今後、地域の方からのご要望や課題に対して改善しながら、各活動に取り組んで参りたいと思います。



# みんなが住みたくなる新見へ

コレクティブ・インパクト部門

## 地域福祉アイデア会議を開催しました。 200人を超える来場をいただき新見市の未来を考えました。



全世代型地域包括ケア研究センターのコレクティブインパクト部門は、2024年2月13日(火)18:20~20:45に「みんなが住みたくなる新見へ 地域福祉アイデア会議」を実施しました。開催目的は、新見市に住むすべての人を幸せにする地域包括ケアの実現に向けて、「福祉×○○」（○○はまちづくり、地方創生、災害支援、交通等の従来の福祉を超えた取組）を行うことの出来るハイブリッド人材の育成・開発を進めることです。その最初の取組である地域福祉アイデア会議では、コミュニティデザイナーとしてまちづくり×福祉の取組を進めておられる山崎亮氏に「中山間地域におけるまちづくりのカギ」についてお話し頂きました。また、様々な福祉×○○の取組を行っているハイブリッド人材の方々との質疑応答を実施し、新見市の地域課題の解決方法やその解決を導く「福祉×○○」を行うことのできる人材についての意見交換を行いました。



### ゲスト：山崎 亮 様

1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士(工学)。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。著書に『コミュニティデザインの源流(太田出版)』、『縮充する日本(PHP新書)』などがある。



ソーシャル・インクルージョン部門

## NiUにいみ日本語教室

人口減少・少子高齢化による生産人口の減少のため、将来、新見でも外国人が増加することでしょう。そこで、私たちは、多文化と共生するために「やさしい日本語」を使った意思疎通が必要です。このため、今年1月から、市内に住む外国人に無料で日本語を教えるNiUにいみ日本語教室を開講しました。市内のボランティアと本学の希望する学生(日本語教育サポーター)が教えます。教える側も学習者も生き生きとしています。



日本語教室サポーター研修



## 健康保育学科

### 表現発表会（音楽劇の上演）

健康保育学科1年生が、2023年12月14日(木)、19日(火)に新棟講堂で、「表現発表会」（音楽劇の上演）を行いました。

必修科目「保育内容「表現」（身体表現）の指導法」の授業の一環として、1学年全員が出演する本学健康保育学科の音楽劇は、全国の保育者養成校でも例を見ない取り組みです。演劇は、身体表現、音楽表現、言語表現、造形表現のすべてを用い、仲間と協力して創り上げる総合的な表現活動です。1年生49名全員が4つのグループに分かれ、それぞれ、「スイミー」「ブレーメンの音楽隊」を上演しました。衣装や小道具、舞台背景などは、すべて学生の手作りです。また、ピアノや楽器演奏、音響、照明、チラシ作成なども学生たちが行いました。



「スイミー」



「ブレーメンの音楽隊」

## 看護学科

### 卒業研究発表会

2023年10月20日に11期生による卒業研究発表会が開催されました。学生たちは自然豊かな新見の地で、看護職を目指し、互いに切磋琢磨して勉学に励みました。3年次から領域実習と卒業研究を並行して進め、各ゼミ教員に指導を受けながら2年間にわたり卒業研究に取り組みました。その集大成として個人およびグループで、看護の疑問を探求し研究の成果を各会場に分かれて口頭発表しました。当日は積極的な質疑応答が交わされ、有意義な発表会となりました。この経験が今後、看護の発展のために活かされることを期待しています。



各会場での発表



閉会式の様子

## 地域福祉学科

### 地域の生活文化に触れる 「高瀬交流餅つき」

2023年12月6日に毎年恒例の高瀬の皆さんとの餅つきをしました。昔は餅つきの道具も身近なものを使って手作りされていました。写真は杵についた餅を、稲わらで作った縄をしっかりと水に浸して使うと無駄なくきれいにとれると教えてもらっているところです。

この経験を通し、的場天音さんは「近所や親戚一同が集まってお餅つきをするなど、行事が大切に扱われていること」、「福祉職として働く時、こうした地域に根付いている行事を大切にしていきたい」と述べています。地域の生活文化を大切にする福祉職となってくれればと教員一同期待しています。





## ゆめのぼけっと2023

2023年12月9日(土)に、健康保育学科全学年が取り組む学科行事「ゆめのぼけっと」を行いました。学生たちは、6月から準備や練習に取り組みました。当日は、歌や劇、ダンス、合奏やパネルシアターなどの舞台発表、造形・科学あそび、エプロンシアターや絵本の読み聞かせなどを行いました。学生たちは、保育や幼児教育についての日頃の学びを発揮して、地域の子どもたちを楽しんでもらうことができました。



劇「シンデレラ」  
おなじみの物語を、個性豊かに演じます。



造形・科学あそび

## 第1回看護学科キャリア支援セミナー

2023年11月17日(金)に第1回看護学科キャリア支援セミナーを開催しました。セミナーの目的は、看護専門職者を目指すものとして職業に対する意識を高め、その責任の重さを自覚し、自分の将来像を考えることです。今年度は養護教諭、助産師、小児科看護師、訪問看護師、保健師の5名の先輩からご講演いただき、講演後には講師別の教室に分かれ、質疑応答の時間を設けました。学生は「将来について考えるよいきっかけになった」等、自分の看護専門職としてのキャリアについて考える機会となりました。



講演の様子



質疑応答の様子

## 基礎ゼミナールC・共生社会実践演習Ⅰ発表会

地域福祉学科1年次「基礎ゼミナールC」と2年次「共生社会実践演習Ⅰ」では、学生が新見市内の地域おこし等に参加します。高瀬地区では蕎麦づくりとマラソン大会、高尾地区では文化祭、とんど祭り、寿司づくり、認知症行方不明者捜索訓練など、御殿町地区では太池邸活用、田治部地区では花まつりとクリスマス会に参加しました。地域の方々とのコミュニケーションを発表する良い機会となりました。関係各位に感謝します。



基礎ゼミナールC発表

共生社会実践演習Ⅰ発表



## 健康保育学科

### キャリア講演会

2024年1月25日、NPO法人日本クリクラウン協会から、熊谷恵利子先生とアシスタントの森下弥生先生をお招きし、健康保育学科2年生を対象に講演をしていただきました。入院生活を送る子どもの病棟を定期的に訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、入院中の子どもの成長や発達をサポートするクリクラウン（臨床道化師）について、「Children first」「すべてのこどもにこども時間を」との理念や活動内容、子どもとのコミュニケーションのヒントなどについてお話をしていただきました。学生たちは、病児保育や特別支援教育についての理解を深め、自身の進路の選択肢や知見を広げる機会となりました。



パフォーマンスを交えながらの講演会

クラウン(道化)に扮した熊谷先生・森下先生と学生たち

## 看護学科

### 解剖実習見学

2023年11月27日(月)、看護学科1年生87名は、大型バス2台に分乗し岡山大学医学部に赴き、系統解剖学実習を見学しました。学生達は、予防衣を身に付け、前室でご献体下さった方に黙とうを捧げてから、解剖室に入り、実習を進める医学生から説明を受けながら、人体の構造と機能について、ご遺体から直接学ぶ貴重な体験をしました。コロナ禍で4年ぶりに実現したこの見学は、今後の看護の学修に大きな励みとなりました。



系統解剖室の入り口で撮影

## 地域福祉学科

### アクティビティ・ワーカーの演習として認知症カフェに参加

一人ひとりのこころと身体の活性化を通して生活の質向上を目指す支援法を学ぶアクティビティ活動援助法Ⅱの授業として、グループホーム花みずき主催の認知症カフェ『ぼえむ』でレクリエーションを行いました。

認知症カフェに参加している地域の方が音楽を通して心身の活性化を図れるようなプログラムを自分たちで考え、実践しました。

当日は、歌唱や体操などを行ったり会話を楽しんだりしました。参加者からは、「久しぶりに笑った」などの感想を頂き、私たちが考えたプログラムを楽しんでいたように感じました。

実践を通して学んだことを今後も活かし、利用者に寄り添った福祉専門職を目指して学び続けようと思います。  
(3年 大庭 早紀子)



## 大学院健康科学研究科

### 大学院構想発表会

2024年1月9日(火)に、大学院健康科学研究科研究構想発表会を開催しました。本発表会では、看護学専攻博士前期課程や地域福祉学専攻修士課程に所属する1年生合計8名がそれぞれの研究構想を発表しました。今年度から、地域福祉学専攻が新設されたことにより、初の2専攻による発表会になりました。「全世代型地域包括ケア看護学/福祉学」の視点にたった修士論文を目指して、これから本格的に研究を開始します。





## 「森のゆうえんち」で実行委員長を務めました

大崎 有紗 (健康保育学科3年)

2023年11月5日(日)、新見公立大学体育館で、第6回「森のゆうえんちinにいみ」(一般社団法人「にいみ木のおもちゃの会」、新見公立大学：共同主催)が行われました。木にちなんだ活動や木育を行っている新見の団体や、本学の学生サークルなどが出展し、多くの親子や新見市民にご来場いただき、楽しんでいただきました。

企画・運営は、私たち学生が中心となって行いました。私たち学生が主体となって行う「森のゆうえんち」は今年で3回目の開催となり、今回は健康保育学科だけではなく、地域福祉学科の学生と協力しながら4月から準備を進めてきました。

実習で培ってきた経験を活かし、子どもたちが楽しいと感じ、また来年も来たいと思ってもらえるイベントとなるようにメンバー一丸となって頑張ってきました。それぞれ実習がある中だったため、思うように準備を進めることができず、本番直前まで準備がわかり、本番までに間に合うのか不安もありました。しかし、当日は、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿や笑顔を見ることができ、ここまで準備を頑張ってきて良かったと思えました。そして、何より私たち自身も子どもたちと一緒に楽しめたことが良かったと思っています。

イベントを企画・運営する中で大変なことはもちろんありましたが、その分、学びや達成感を得ることができ、貴重な経験をさせていただくことができました。また、このイベントを成功させることができたのは、様々な方に支えていただいたおかげです。携わって下さった皆様、本当にありがとうございました。



実行委員のメンバー(健康保育学科3年)



## 夢に向かって

### 日本友好都市青少年江西省訪問プロジェクトに参加して

健康保育学科3年 荻野茉菜、釘宮桜雪、看護学科3年 菊池弥咲、佐々木遥、地域福祉学科2年 片山怜、同1年 岩本瑞季

私たちは、1992年6月に岡山県と友好提携を締結した中国の江西省との国際交流として、2023年8月21日～8月27日の七日間、中国を訪問しました。

この訪問プロジェクトを通して実際に現地に足を運ぶことで、その場でしか味わうことのできない様々な経験ができました。

中日青年友好交流大会では、岡山県代表として、「うらじゃ」と「世界に一つだけの花」を披露しました。会場一体となって踊ったり、歌ったり、異文化交流を楽しみました。

訪問プロジェクトの一環として、中国の食品、布製品工場などを見学しました。中国の工場では機械化が進んでおり、ほとんどの作業を機械が行っていました。見学をしながら、現地の方達からの話を聞いたり、質問したりしながら、発展した中国の技術を知り、学びを深めました。

また、『廬山恋』の映画舞台となった廬山や、白鹿洞書院など、観光地にも訪れました。観光地では、道中にある現地の食べ物を食べたり、様々な中国の伝統文化に触れたりしました。現地の方達とのやり取りや会話を楽しみ、積極的に関わりました。

この訪問プロジェクトに参加して、文化や言語といった垣根を越えた国際交流の楽しさを実感しました。私は、拙い中国語しか話せませんでしたが、ジェスチャーや英語を交えながら現地の人とのコミュニケーションを取り、現地の方達と深く交流することができました。

私達は今回が初めての中国訪問でしたが、岡山県国際課の方達をはじめ、訪問プロジェクト参加者達と支え合いながら、充実した七日間を過ごすことができました。この経験を忘れずに、今後の生活に生かしていきます。今回の訪問に携わってくださった皆様、本当にありがとうございました。(荻野 茉菜)



## NiU新見公立大学 発達支援センターなごみの紹介



健康保育学科 教授 岡本 邦広

私は、中学校や特別支援学校の教員、国立特別支援教育総合研究所主任研究員などを経て、2022年4月に本学に着任しました。

専門は、特別支援教育で、なかでも、障害のある子どもの保護者との連携・協働、行動問題、自立活動などの研究に取り組んでいます。今回は、本学、NiU新見公立大学発達支援センターなごみで実施している、①個別相談、②研修講座、③学習支援、④研究の4つの取組をご紹介します。

### ◆個別相談

個別相談は、保護者や教員を対象にし、健康保育学科高橋彩講師や同学科学生と協力しながら学校や家庭での児童生徒の学習面ならびに生活面における気がかりなことについて、保護者や教員と問題解決に向けて一緒に考えたり、小・中学生を対象とした個別的な学習支援を行ったりしています。児童生徒の学校や家庭での生活をより充実させるために、相談事例によっては児童生徒の通う学校や、本学「ひだまりのいえ」の高月教恵研究員（本学名誉教授）と連携して個別相談を進めています。

### ◆学生による児童対象とした長期休業中の学習支援

学習支援は、長期休業中（夏、冬、春休み）に学生による市内小学校に在籍する1～6年までのすべての児童を対象に行っています。学生は、健康保育学科において特別支援学校教諭一種免許状取得を志す学部生です。今年度の夏、冬休みに実施した回数は、それぞれ4回、2回でした（いずれも、10時～12時）。参加児童数は、1回あたり10名程度で、休業中の国語や算数の宿題を持参し勉強をしました。学生は、児童から宿題に関する質問を受けると、問題を解く手がかりを示し根気強く丁寧にに関わり、正解すると称賛し児童の学習意欲を高めていました。



学生が小学生に学習支援を行っている様子

### ◆研修講座

研修講座は、保育士、教員、療育機関で勤務する支援者等を対象に、特別支援教育や応用行動分析学に基づく研修を行っています。今年度の研修内容は、全6回（1回：令和に求められる特別支援教育①、2回：令和に求められる特別支援教育②、3回：行動の原理、4回：行動の機能、5回：望ましい行動を増やす方法、6回：保護者との連携・協働）でした（講師は、健康保育学科 高橋彩講師と分担）。参加者は、保育士、小・中学校の教員、教育支援員、特別支援教育に関心の高い一般の方で毎回10名程度の参加がありました。参加者は、「普段の実践現場では考えることのない視点が得られた」と実践を想起し、自身で考えた演習内容の解答を積極的に講師に尋ねるなど、どの参加者も真剣に研修に取り組んでいました。



研修講座の様子

### ◆研究

3つの研究課題を紹介します。

「NiU新見公立大学発達支援センターなごみにおける取組の意義の検討：学習支援ならびに研修講座に着目して」（発表者：岡本邦広・高橋 彩・芝崎美和）（いずれも、健康保育学科）

日本発達障害学会第58回研究大会（2023/11/4）において、昨年度のなごみの取組を報告しました。

研究課題「A市の小・中学校における発達障害等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する校内支援体制についての実態調査」

本学 河田恵子研究員、A市教育委員会と連携し、学習面や生活面での特別な支援ニーズをもつ児童生徒が不登校などの二次障害に陥らないための校内支援体制について検討を行っています。

研究課題「特別な教育的ニーズを有する児童の保護者との協議ツールを活用した協働的アプローチに関する研究」

家庭や学校で改善させたい児童の行動に対し、応用行動分析学の理論に基づく支援方法をもとにして、家庭や学校と大学の協働的な取組によって問題解決できるか、また、児童の家族のFQOL (Family Quality of Life) が改善するかどうかを検討しています。



# 大学から学びを発信

## PIONEプロジェクト

PIONEプロジェクトは地域の医療者の育成を目的に、新見公立大学、新見市と共に2014年から活動しています。疑似体験で学ぶ「シミュレーショントレーニング」を取り入れ、市内の看護師や介護士に対して急変時の対応をトレーニングしています。新見公立大学のシミュレーション室で行い、これまでに20回開催しました。さらに2023年には次世代育成のために、子ども達が楽しみながら応急処置を学ぶ「こどもメディカルラリー」を開催しました。新見公立大学の学生、新見市内の医療者がボランティアとして多数参加し、子ども達の活躍を見守りました。

(PIONEプロジェクト 代表 溝尾 妙子)



## にいみ子育てカレッジも15年になりました

地域子育て支援拠点「にいみ子育てカレッジ」が新見公立大学に設置されて15年になります。「にいみ子育てカレッジ」では、親子交流ひろば「にこたん」の開室や、子育て相談、情報発信など、地域の子育てニーズを把握しながら、大学・地域・行政が連携し、子育て支援に関する様々な事業に取り組んでいます。

親子交流ひろば「にこたん」は、就学前（0～6歳）のお子さんとその保護者、これから出産を迎えるプレママ・プレパパさんや地域の方がいつでも気軽に立ち寄って、ゆったりと安心して自由に集える場所です。その「にこたん」内で、各学科の学生が実習やボランティアとして、にこたんを利用する親子さんや地域の方との交流に参加しています。学生は「にこたん」での活動を通して、子育ての実情や子育て支援の取り組みについて学び、それぞれの専門性を高めています。また、NiU 駅西サテライト（こども交流広場）を活用し、2022年度から「にこたん出張ひろば」の開設、また新たに一時預かり事業（託児サービス）を開始しています。部屋から見える電車に手を振って楽しんだり、近隣の保育施設のお友達が散歩で遊びに来てくれたりと、地域の人が集い、交流できる場となっています。



看護学科実習



NiU 駅西サテライトでの出張ひろばの様子



# 同窓会だより

新コーナー

## Familia

おやこ・きょうだいの入学を紹介します

### 林(昌谷)和美(母)・旺佑(子)様親子で入学

新見女子短期大学地域福祉学科1期生として卒業し、25年が過ぎようとしています。卒業後は地元新見市で地域福祉を推進する「社協」で働いています。現在は生活支援コーディネーターとして、地域の方々や関係機関、そして新見公立大学などと連携し地域共生社会の実現に向け日々精進しています。

新見公立大学は現在、3学科4年制大学となり、私の長男もそのうちの1人で自宅通学しています。同じ志を持った全国から700人を超える学生と共に大学生活を満喫しています。卒業後の進路はまだ見えていませんが、いつも支えてくださっている地域のみなさんのために親子でいつか新見市に恩返しできたらいいなと思っています。



### やまのこ保育園みのりの森

園長 山根 隆英子 (幼児教育学科19期生)

7年前に企業主導型保育園の立ち上げを手伝い、今、施設長として働いています。時代と共にあるような物が変化しつつある状況の中、今目の前にいる子どもたちと向き合い、職員と向き合っているところです。



現場で保育士として働いている時はまた違った目線でみながら指導する立場にいます。

学校で勉強することはもちろん大切ですが、現場は教科書と違って目の前にいる子どもたちが毎年違います。保育軸をしっかり持ちながら目の前にある子どもの姿をしっかり受け止めていくことを大切に保育をしています。

### 訪問看護ステーション デューン岡山南

所長 野崎 雄飛 (看護学科3期生)

私は、精神科特化の訪問看護ステーションで働いています。訪問看護では、困難ケースに携わることもありますが、ステーション内だけでなく、病院や相談支援員、保健師等とも連携をとり、他職種連携でご利用者様に寄り添うことに魅力を感じています。入社した当社は、1人での訪問看護に不安もありましたが、ステーションや地域の関係機関の皆と一緒に考え行動することを学び、安心感を得ました。ご利用者様より「ありがとう」と笑顔で言われる度に、訪問看護のやりがいと喜びを感じています。皆様、ぜひ在宅医療と一緒に羽ばたきましょう。





## 新見公立大学・延世大学 (Yonsei University) 学術交流シンポジウムを開催しました

新見公立大学と韓国・延世大学は2022年10月に学部間の学術交流協定を締結しました。この学術交流の一環として、2023年11月29日～12月1日の間に延世大学保健行政学部の訪問団(24名)が本学に来学され、「日韓における医療・福祉の動向・課題」をテーマとした学術シンポジウム、新見中央病院と倉敷成人病センターへの共同訪問などを行いました。2024年3月には本学の学部生・大学院生および教員(30名)が延世大学等を訪問します。両大学間の交流の活性化が期待されます。



## 学生のキャリアを応援します

相談室



### 修学・キャリア支援センターの活動紹介

当センターは、2021年4月に、学生の支援体制強化を目的に開設しました。専任職員が常駐し、学科教員と連携しながら、修学やキャリア形成に関する幅広い支援を行っています。多くの学生が、就職活動や進路選択における相談、エントリーシートや面接カードの添削、面接練習などで、センターを利用していています。

“学生が納得して就活を終えて社会に飛び立つこと”が私たちの願いです。

お気軽にお越しください。

場 所▶本館1F

専任職員▶古谷明子・小林一成・佐藤昌美

利用時間▶月曜日～金曜日

8時30分～17時00分





# まんさく

2024年3月号  
Vol.66



編集  
後記

まだまだ寒い日が続いておりますが、暦の上では春を迎え、季節は少しずつですが春に向かっていくように感じます。まず、1月1日に発生した能登半島地震に被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日でも早く元の生活の戻ることができまよう、心より願っております。

さて、今回の66号では、2023年4月に設立された全世代型地域包括ケア研究センターの取り組みである「NIU-KTSM(口から食べる幸せを守る)プロジェクト」、「地域福祉アイデア会議」について取り上げました。口から食べることは一見普通のことのようにも思えますが、この度のセミナーをご担当頂きました小山珠美先生も著書の中で、「食べることは命の根幹であり、生きる権利に等しいもの」と書かれており、食べる幸せ、を守ることはその人のQOLに大きく関わる重要な要素であると思います。また、「地域福祉アイデア会議」では、福祉型ハイブリッド人材の開発を目指し、様々な分野の専門家の方々からご登壇頂き、実践紹介をして頂くとともに新見市の未来について参加者全員で考える場となりました。

卒業生の皆様、地域の皆様には、今回ご紹介いたしました全世代型地域包括ケア研究センターの取り組みをはじめとした本学の活動につきまして、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。(安藤)

発行

新見公立大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL: <https://www.niimi-u.ac.jp/>



編集

広報委員会

広報部長

三上 ゆみ

広報委員(50音順)

浅原 佳紀 安藤 亮 磯本 暁子  
井上 祐介 入江 慶太 岸本由梨枝  
柴田 知瑞 高橋 彩 広瀬 綾子  
柳迫 三寛 山内 圭 山根 智幸

## 中川博之先生を顕彰する会からの寄付贈呈式について

2023(令和5)年7月18日に「中川博之先生を顕彰する会」から、「土下座まつり」で使用するための、法被(170着分)を寄付していただきました。寄付贈呈式では、故中川博之先生の奥様の中川諄子様から本学の公文裕巳学長に目録が贈呈されました。

おかげ様でいただいた法被を着用し、10月15日の「土下座まつり」には約160名の学生がボランティアとして、参加することができました。

今後は、「土下座まつり」の他にも地域の様々な行事へ際に活用させていただき、「地域がキャンパス」を合言葉に学ばせていただく中で、地域に少しでも貢献できればと思います。

### 中川先生を顕彰する会からの 寄付贈呈式



## 公文裕巳理事長3期再任記者会見



公文裕巳理事長が、2024年度よりの3期目の理事長・学長に再任され、1月20日に年頭記者会見を行いました。2016年の就任以来の大学改革を振り返るとともに、今後の抱負を述べられました。特に、①スチューデント・アシスタント(SA)制度の拡充と学生目線での学びの質保証システムの構築、②健康保育学科での病気や障害のある子どもの支援に関する学修の充実、③看護学科と地域福祉学科での食事支援サポーター育成や排せつケアに関する学修カリキュラムの新設、ならびに④摂食嚥下障害看護認定看護師養成のための教育機関認定申請など、新しい企画について紹介されました。

## 奨学金

### 【奨学金】

高等教育の修学支援新制度の対象校になっています。該当の学生は授業料減免及び給付奨学金を受けることができます。また、日本学生支援機構などの奨学金制度もあります。詳細についてはお問い合わせください。本学独自の奨学金制度については下表のとおりです。

名称	種別	採用人数	金額	内容
新見公立大学 ふるさと育英奨学金 (申請先:新見公立大学)	給付	健康保育学科4名 看護学科5名 地域福祉学科4名	10万円(年額)	本学学部入学生の入試成績が優秀であり、かつ本学が定める家計基準を満たした学生に給付します。申請に基づき、入試種別ごとに選考します。
新見公立大学奨学金基金 (申請先:新見公立大学)	貸与 (無利子)	制限なし	30万円(上限)	本学在籍者が国内外の研修等に参加する場合、または緊急な事情等により経済的に困窮した場合に貸し付けます。卒業までに返還する必要があります。
新見市看護学生 奨学支援金給付制度 (申請先:新見市)	給付 (条件付)	4名程度 (新入生・在学生含む)	6.5万円(月額)	新見市内の医療機関等で、看護師として勤務しようという意思のある看護学生に給付されるものです。卒業後、新見市内の医療機関等に4年以上勤務する必要がある場合、新見市内の医療機関等に4年以上勤務するまでの間、新見市外の医療機関等に5年以上従事することができます。
新見市介護学生 奨学支援金給付制度 (申請先:新見市)	給付 (条件付)	4名程度 (新入生・在学生含む)	5万円(月額)	新見市内の介護事業所等で、介護福祉士として勤務しようという意思のある介護学生に給付されるものです。卒業後、新見市内の介護事業所等に3年以上勤務する必要があります。

### 【授業料減免制度】

次のいずれかに該当する学生は、授業料の全額又は半額が免除される制度があります。

- 経済的理由により学費の負担が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
- 納期前6か月以内(新入生の場合は入学前1年以内)に、学費負担者が死亡または重度障害、災害その他これらに準ずる事由により、学費の負担が困難と認められる者

※免除実施可能額には上限があり、減免対象基準を満たしていても、減免を受けられない場合があります。詳細についてはお問い合わせください。